

## 序

県立博物館紀要第2号を発行するにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。今回の紀要には、沖縄の地質や考古から、民俗、工芸の各分野にわたって、当館の5名の学芸員が日頃の研究の成果をまとめてあります。その範囲は有史以前から戦後にまで及んでおり、これらの研究を通じて、沖縄の文化のなりたちがいかに深遠なるものであるかを感じさせます。そして、人間の文化が自然や風土の中からつちかわれ、生成発展していくものだということを考えさせられます。

すなわち、人間の営みや文化の形成には、その地域でしかできない必然的要素があり、他のまねのできない諸々の条件を自然や風土が備えているので、そこをわれわれはしっかりとみつけ、深く掘り下げなければならないと思います。

地質、考古、民俗、工芸その他沖縄文化のあらゆる分野において、研究・発掘をいっそう綿密にすることによって、こんご何が出てくるかわかりません。われわれは、あせらずに真理の探究に邁進すべきであり、それがまた明日の沖縄文化の発展につながることは申すまでもありません。

今年度は海洋博の開催等で学芸員も多忙であったが、研究・調査もおこたらず、第1号にもまさる紀要になったと自負しております。来年度は当館が創立30周年を迎えるため、益々多忙になると思うが、研究調査は出来るだけ時間をとって、りっぱな紀要を出すよう皆で頑張り、かつ、研究の大成を期したいと思います。どうかご批評たまわるようお願いを申し上げます。

昭和51年3月20日

沖縄県立博物館長

外 間 正 幸